

プロジェクト報告 Project Reports

インド

『マハラシュトラ州プネ県における貧困削減のための農村開発事業』

対象地域 : インド共和国プネ県近郊ムルシ地区

サポート : 国際協力機構 (JICA)

期間 : 2011年1月~9月 <第3年次>



プロジェクト地であるムルシ地区はデカン高原の一部であり、四方を山に囲まれた平地の少ない地域である。ICAは2008年からJICAの資金協力により、灌漑施設の導入による二毛作や酪農の指導などを中心に活動を行ってきた。2011年事業は最終年の3年目ということもあり、3月までには灌漑やバイオガス建設といったハード面での事業がすべて予定通りに終了した。特に灌漑の成果は大きく、灌漑の引かれた地域では二毛作が可能になったため、乾季には使われていなかった場所が畑に変わり、人々はこぞって野菜栽培を始めるようになった。(通常灌漑の引かれていない地域では、雨季に稲作をするのみで、乾季は雨が全く降らないため空き地となっている。)

インドは昨今インフレが激しく、年で50%以上上昇する商品も少なくない。野菜の値段の上昇率も激しく、現金収入の少ない農民は野菜すら購入できず、米のみを食べている家庭も多かった。

しかし、灌漑設備の導入に伴いICAが野菜栽培の指導を行い、農民に積極的に二毛作を勧めたこともあって、多くの家庭では自己消費分はもちろんのこと、野菜の販売により平均年間1エーカー当たり15,000RS(約2万円)の収入増につなげることができた。また、バイオガス建設とつながりのある酪農業(バイオガスは牛糞により発生するため、3頭以上の牛が必要であり酪農業と連携して行われている。)も、成功者が村から複数名ではじめたこともあり、活性化がみられ、自発的に酪農組合がつけられ活動も始まった。同時に、ミルクセンターに集められるミルクの量も安定して増加してきている。



灌漑によって農地に水が引かれていく



雨季に牛を使って田起しが行われる

今年事業は最終年度を迎えるため、現在ICAは事業の定着と自立発展のための講習を中心とした活動を行っている。特に酪農と野菜栽培に関する講習会はとても人気が高く、参加者からは積極的な発言が出るまでになった。事業の開始時に比べると人々の意識は飛躍的に向上しており、「よりよい暮らしへ」という意欲が感じられる。

10月で事業はいったん終了となる。事業の確固たる定着と発展のために、現在フォローアップ事業の申請を行っている。次の事業では、現在の事業の定着のほかにも、女性の地位向上という次のステップに焦点を絞った活動を行っていく予定である。



農業フォーラムで質問を行う村民
@カタルカダック村



農業省から種籽の授与を受ける
@カタルカダック村



苗木をもらってうれしそうな子供達
@カタルカダック小学校



学校に植樹する子供達
@アンダレ小学校



植林プログラムの式典
@アンダレ村



式典で踊る生徒達
@カンボリ小中学校



ガン撲滅NGO団体と村で行った健康診断は大盛況
@カタルカダック村

最後に、3月に東日本大震災が起こった折には、多くの村民たちから暖かい言葉をいただいた。「私たちは今まで日本の人々に助けられ、ここまで生活がよくなった。今度は自分たちの番だから、日本の人々に村から米などを送りたい。」と。彼らの生活はまだまだ日本に比べれば比較にならないほど貧しい。その米を送ったらまた何日か食べられない暮らしになってしまうが、それでも日本に感謝の気持ちを表したいとのことだった。この言葉を聴き、村民と一緒に黙祷をしたとき、私たちの活動はこの地に根付いてきたと感じた。